証券コード：7932

株式会社ニッピ

2025年3月期
決算説明資料

2025年5月29日

INDEX

1 2025年3月期 決算概要

2 2026年3月期 業績予想

3 APPENDIX

1 2025年3月期 決算概要

2025年3月期 決算概要（連結）

期初は各種コスト増による減益を予想も、収益性の改善が進み売上高および営業利益は計画比増

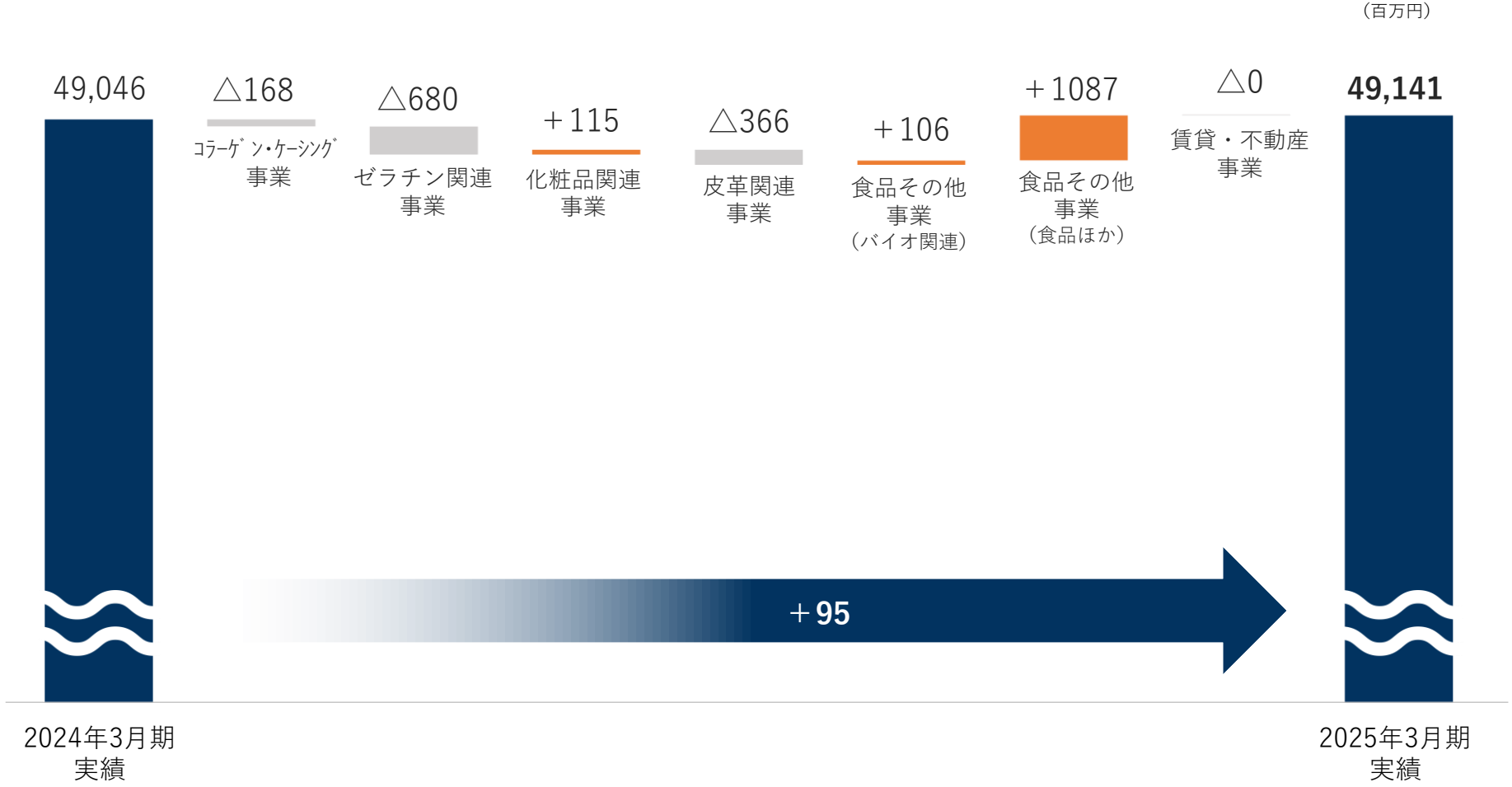
単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	2025年3月期 実績	前年同期比 （25.3期実績/24.3期実績）
売上高	49,046	49,000	**49,141**	＋0.2%
営業利益	3,612	3,000	**3,627**	＋0.4%
営業利益率	7.4%	6.1%	**7.4%**	＋0.0P
EBITDA*1	5,404	－	**5,021**	△7.1%
経常利益	3,740	3,000	**3,615**	△3.4%
親会社に帰属する当期純利益	2,548	2,000	**2,457**	△3.6%
一株当たり当期純利益（円）	886.04	695.44	**854.46**	△3.6%
ROE	7.1%	－	**6.3%**	△0.7P
ROIC*2	6.1%	－	**4.9%**	△1.2P

*1：EBITDA＝経常利益+支払利息+減価償却費

*2：現行中期経営計画では、税引後営業利益を投下資本（株主資本と有利子負債の期末残高合計）で除して計算していましたが、今年度より、税引後営業利益を投下資本（純資産と有利子負債の期首残高合計と期末残高合計の平均）で除する計算に修正しております

連結売上高 増減要因分析

コラーゲンペプチドの輸出販売が減少するものの、米国産有機穀物およびイタリア食材の輸入販売が価格改定もあり上昇



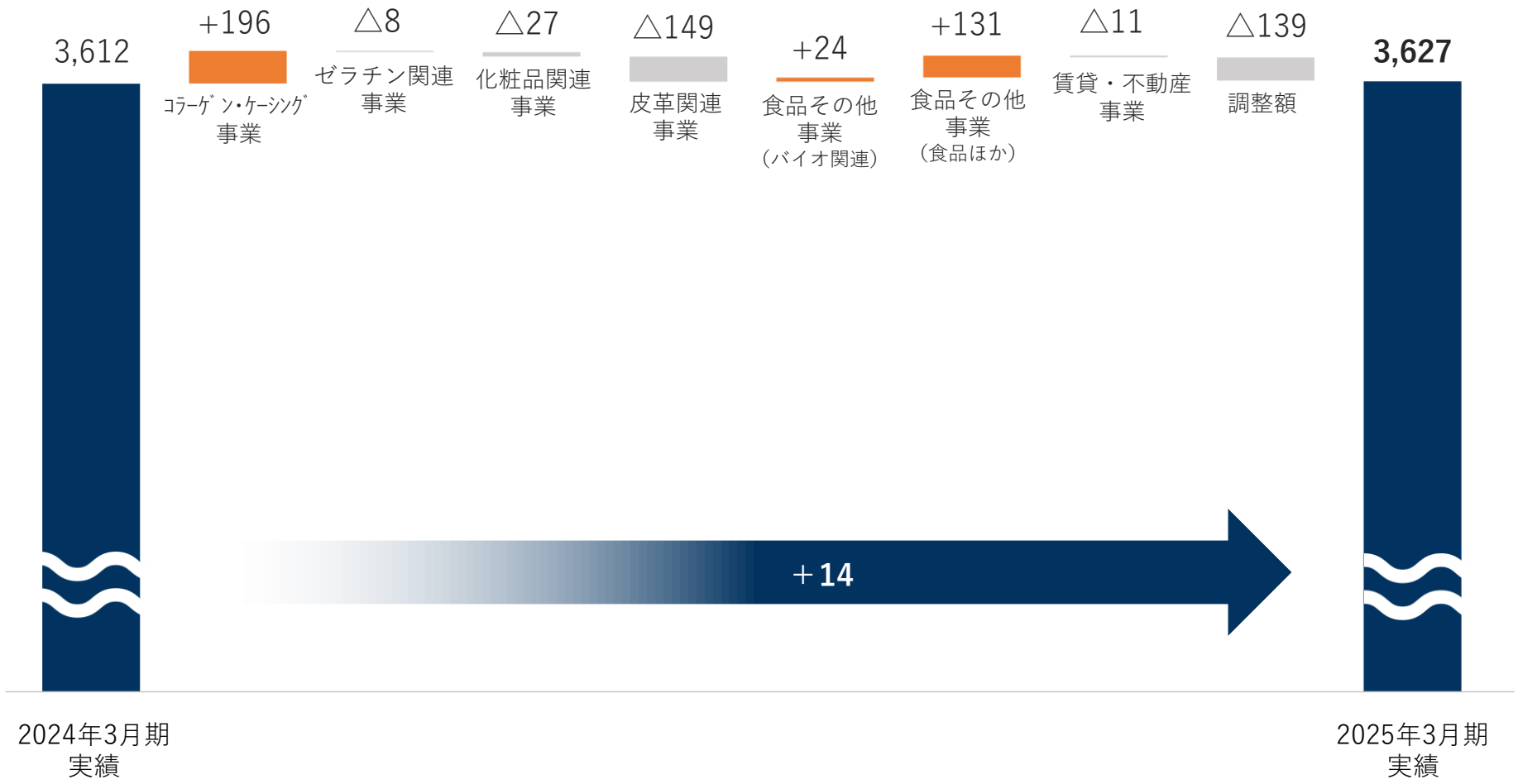
ゼラチン関連事業	△680
処理水問題や海外安価品との価格競争激化により、ペプタイドの輸出販売が減少	

食品その他事業（食品ほか）	＋1,087
価格改定もあり有機穀物、イタリア食材の輸入販売が好調	

連結営業利益 増減要因分析

ほぼ前年同様の水準で着地、コラーゲン・ケーシング事業は輸出為替の影響もあり収益性改善が続く

（百万円）



ｺﾗｰｹﾞﾝ・ｹｰｼﾝｸﾞ事業	+196
• 円安の進行もあり北米への輸出販売が好調に推移	

皮革関連事業	△149
• 中国経済の減速や自動車メーカーの認証不正問題により、自動車ハンドル用革が苦戦	

セグメント別業績（連結）

各セグメントで増減あるも、全体としては売上高、営業利益とも前年並みで着地

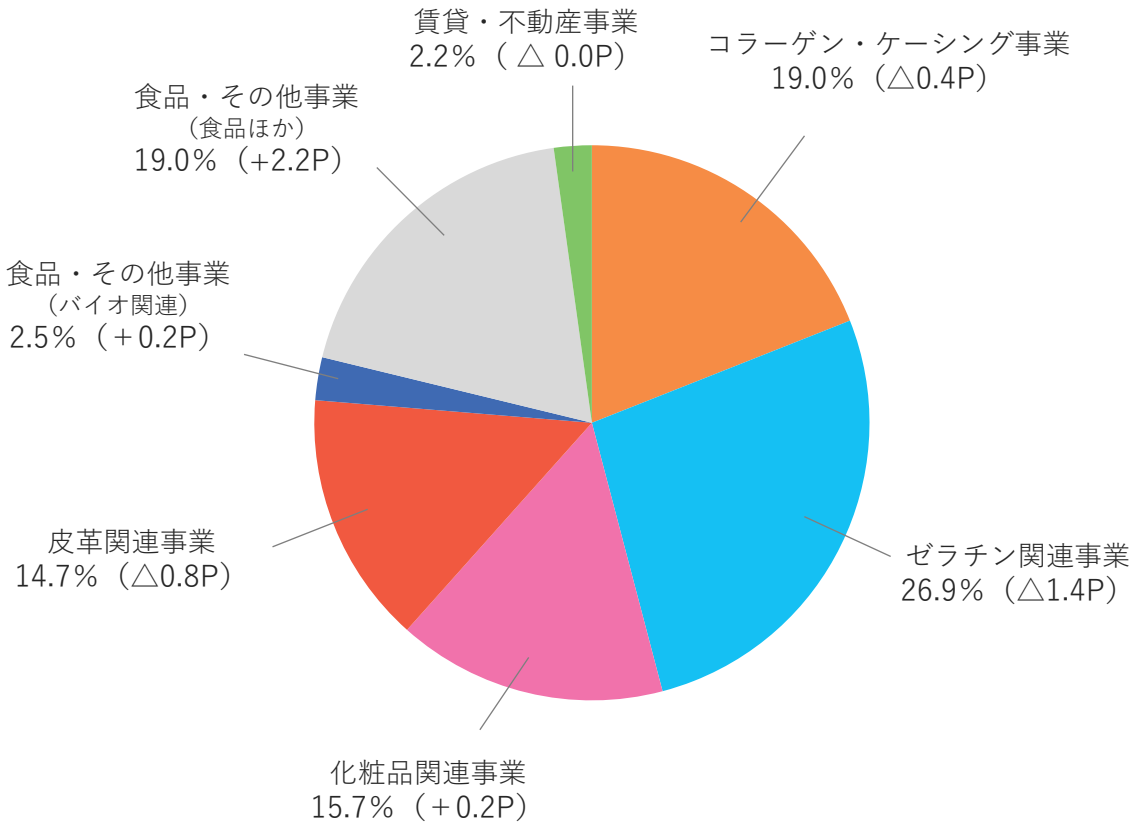
単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2024年3月期 実績	**2025年3月期 実績**	前期同期比		2024年3月期 実績	**2025年3月期 実績**	前期同期比	
			金額	比率			金額	比率
コラーゲン・ケーシング事業	9,497	**9,328**	△168	△1.8%	969	**1,165**	＋196	＋20.2%
ゼラチン関連事業	13,923	**13,242**	△680	△4.9%	1,597	**1,589**	△8	△0.5%
化粧品関連事業	7,588	**7,704**	+115	+1.5%	1,042	**1,015**	△27	△2.7%
皮革関連事業	7,593	**7,227**	△366	△4.8%	359	**210**	△149	△41.5%
食品その他事業（バイオ関連）	1,112	**1,219**	+106	+9.6%	252	**277**	+24	+9.6%
食品その他事業（食品ほか）	8,269	**9,357**	+1,087	+13.2%	187	**318**	+131	+70.2%
賃貸・不動産事業	1,061	**1,061**	△0	△0.0%	848	**836**	△11	△1.4%
調整額	－	**－**	－	－	△1,644	**△1,784**	△139	+8.5%
合計	49,046	**49,141**	+95	+0.2%	3,612	**3,627**	+14	+0.4%

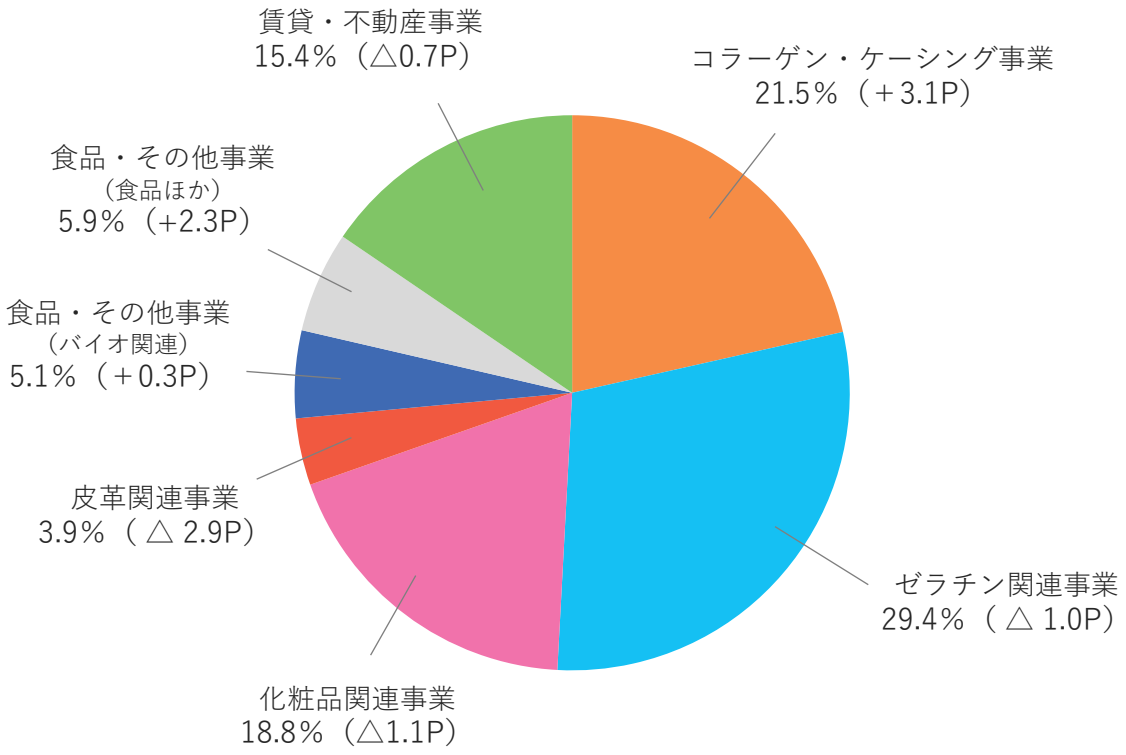
セグメント別業績 構成比（連結）

コラーゲン・ケーシング事業の営業利益が増加、売上高・営業費ともにバランスの取れた構成比となる

売上高構成比

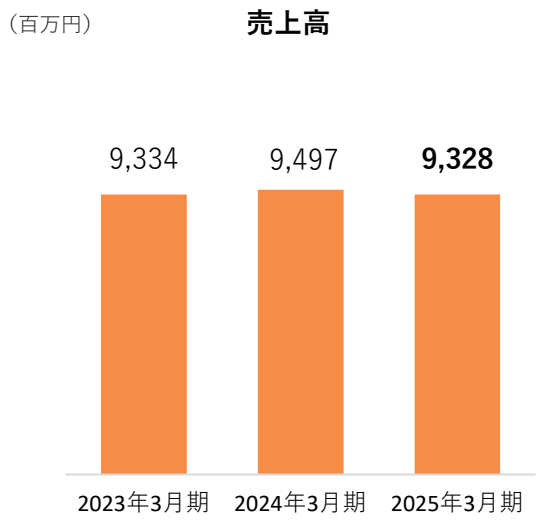


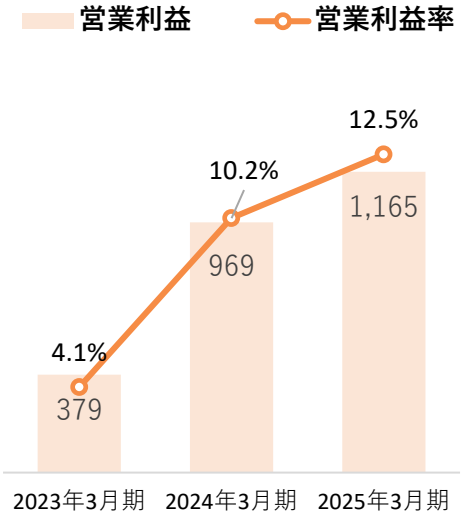
営業利益構成比 （全社費用控除前）



セグメント別業績（連結）

コラーゲン・ケーシング事業





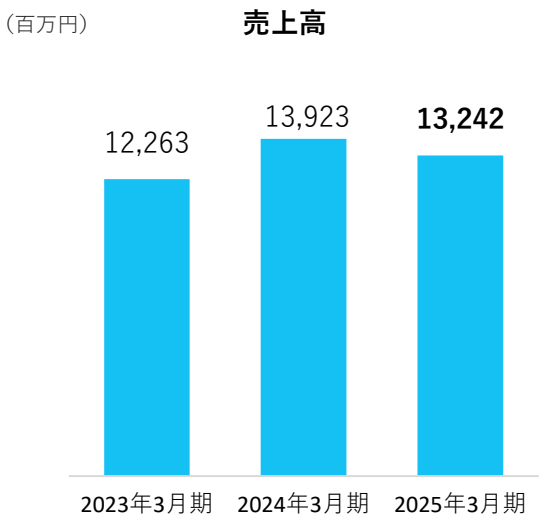
売上高

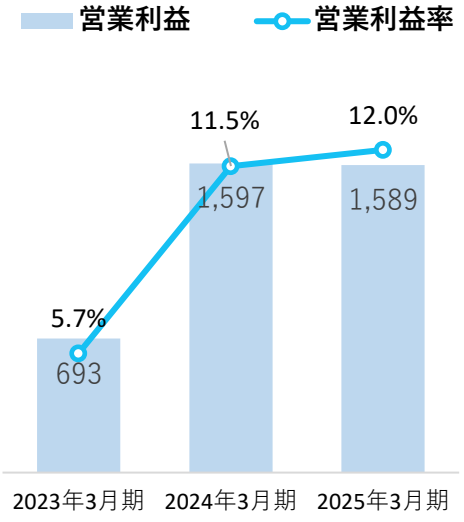
- 国内販売は物価高騰により最終製品の需要が減少し、出荷数量減少
- 輸出販売で主力の北米向け出荷数量が回復

営業利益

- 北米向け輸出販売が、 出荷数量の増加および輸出為替の影響もあり収益性改善

ゼラチン関連事業





売上高

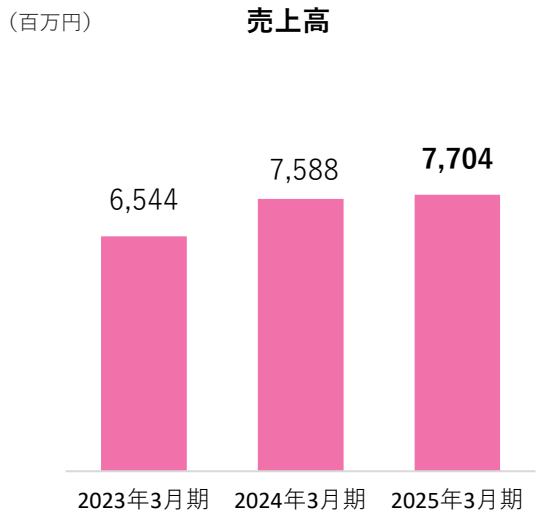
- 処理水問題や海外安価品との価格競争激化により、ペプタイドの輸出販売減少

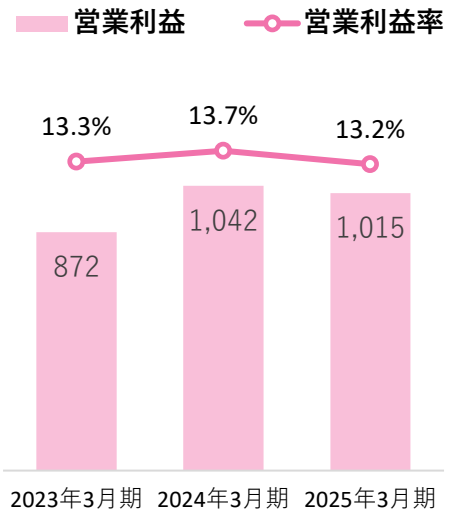
営業利益

- 価格競争に対応した価格協力を一部進めるも、為替の影響もあり高止まりしていた原料価格が軟化傾向にあり収益性は維持

セグメント別業績（連結）

化粧品関連事業





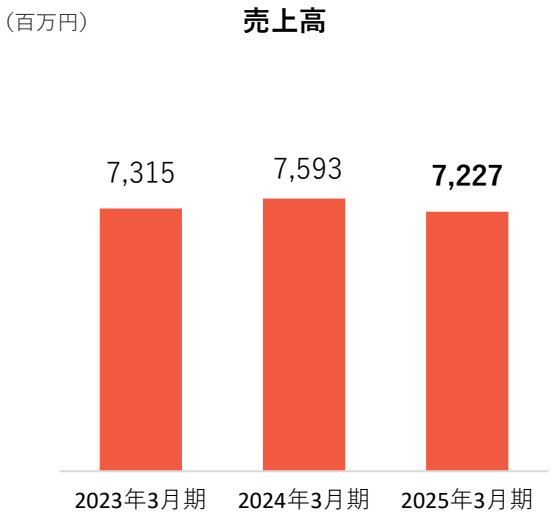
売上高

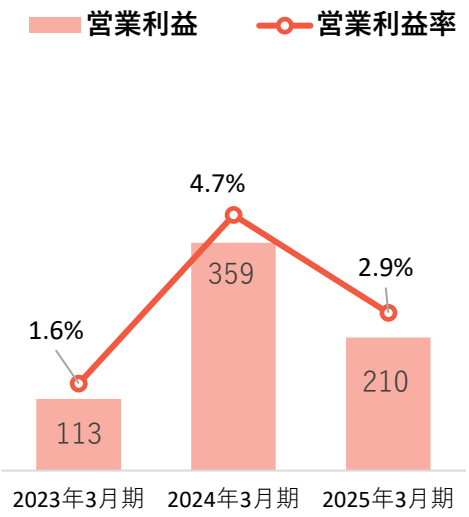
- 健康食品サプリメントの健康被害報道があり伸び悩むも、「ニッピコラーゲン100」の販売が引き続き伸長

営業利益

- 広告宣伝における媒体費の高騰により、収益面での効率が減少

皮革関連事業





売上高

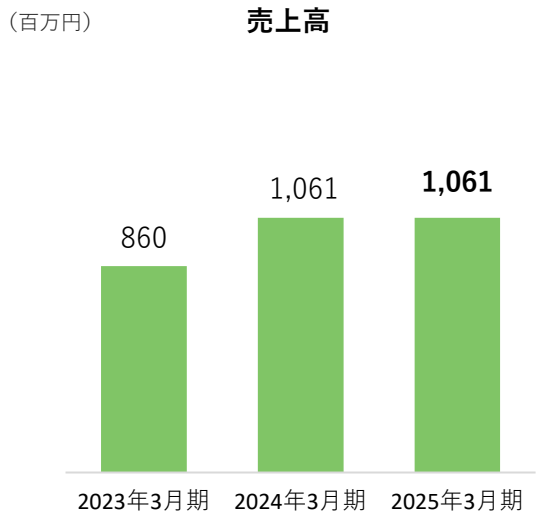
- 中国経済の減速や自動車メーカーの認証不正問題により、自動車ハンドル用革の販売が苦戦

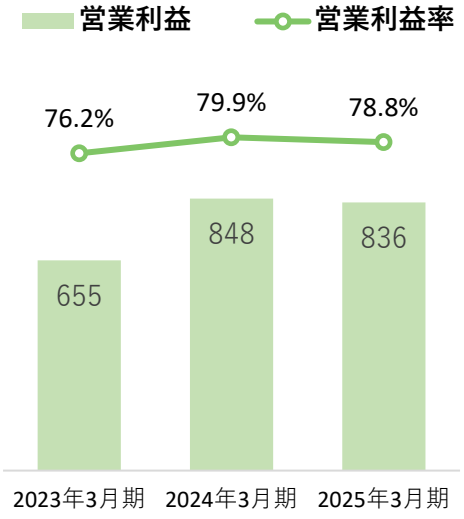
営業利益

- 売上高の減少および各種コスト増により減益

セグメント別業績（連結）

賃貸・不動産事業





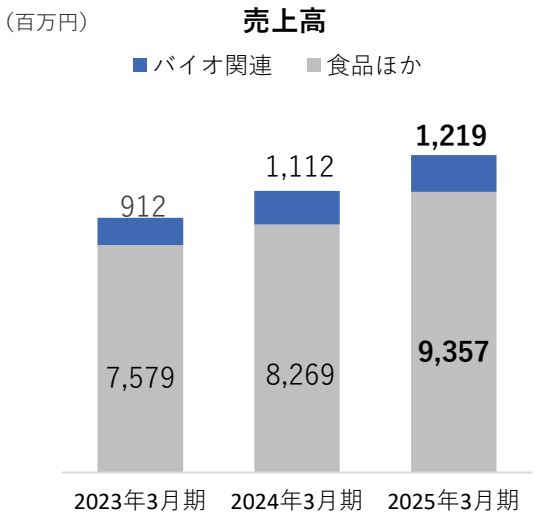
売上高

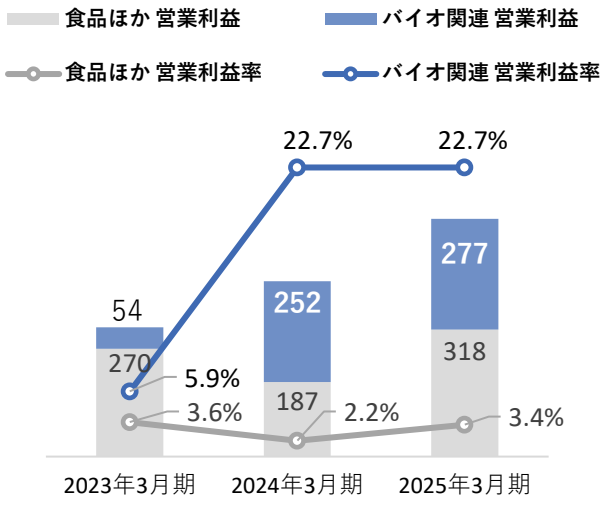
- ほぼ前年と同様で着地、東京都および大阪府における開発は一段落し、今後も同水準で推移する見通し

営業利益

- 固定資産税が微増

食品・その他事業





売上高

- バイオ関連：医療用ゼラチンなどの販売が順調に推移
- 食品ほか：イタリア食材の輸入販売が、欧州でのオリーブオイル不作による国内メーカーの引き合い増加

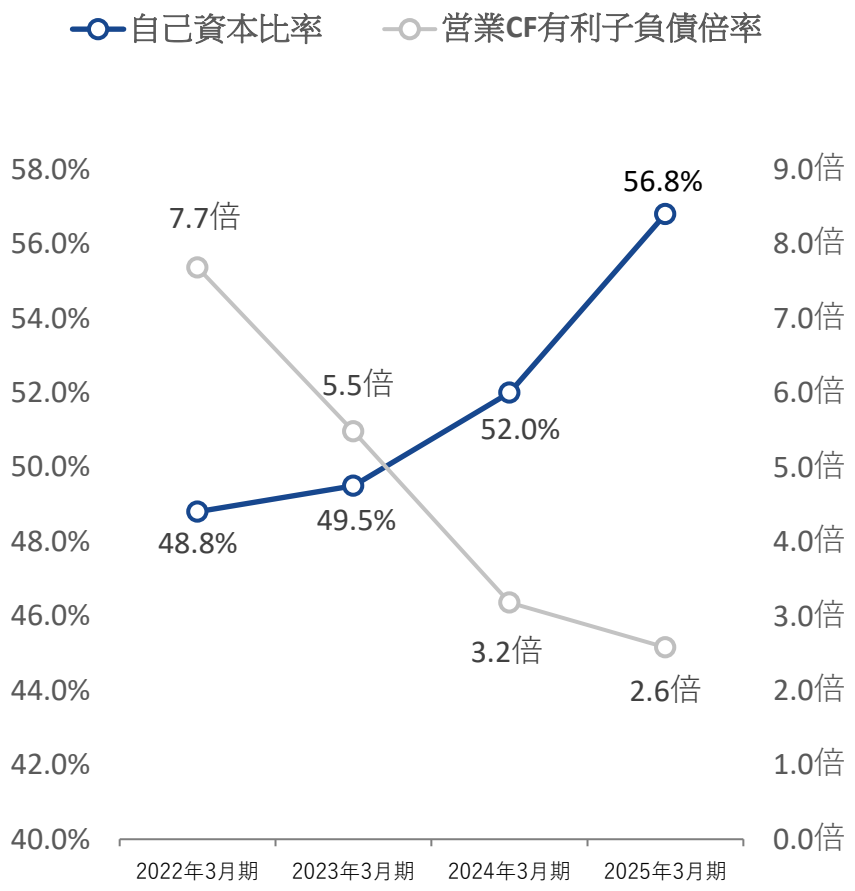
営業利益

- バイオ関連：売上の伸長に伴い営業利益も増加
- 食品ほか：欧州現地価格の上昇に対応し、価格改定を進め増益

連結貸借対照表

有利子負債の圧縮が進み、営業CF有利子負債倍率は3倍を下回る

単位：百万円	24年3月期	**25年3月期**	増減額
流動資産	29,602	**27,574**	△2,028
現預金残高	8,778	**8,933**	+154
固定資産他	42,791	**42,597**	△193
資産合計	72,394	**70,172**	△2,221
流動負債	17,656	**14,692**	△2,963
固定負債	16,433	**14,910**	△1,523
純資産	38,304	**40,569**	+2,265
負債・純資産合計	72,394	**70,172**	△2,221
自己資本比率※	52.0%	**56.8%**	＋4.8P
営業CF有利子負債倍率	3.2倍	**2.6倍**	△0.6倍

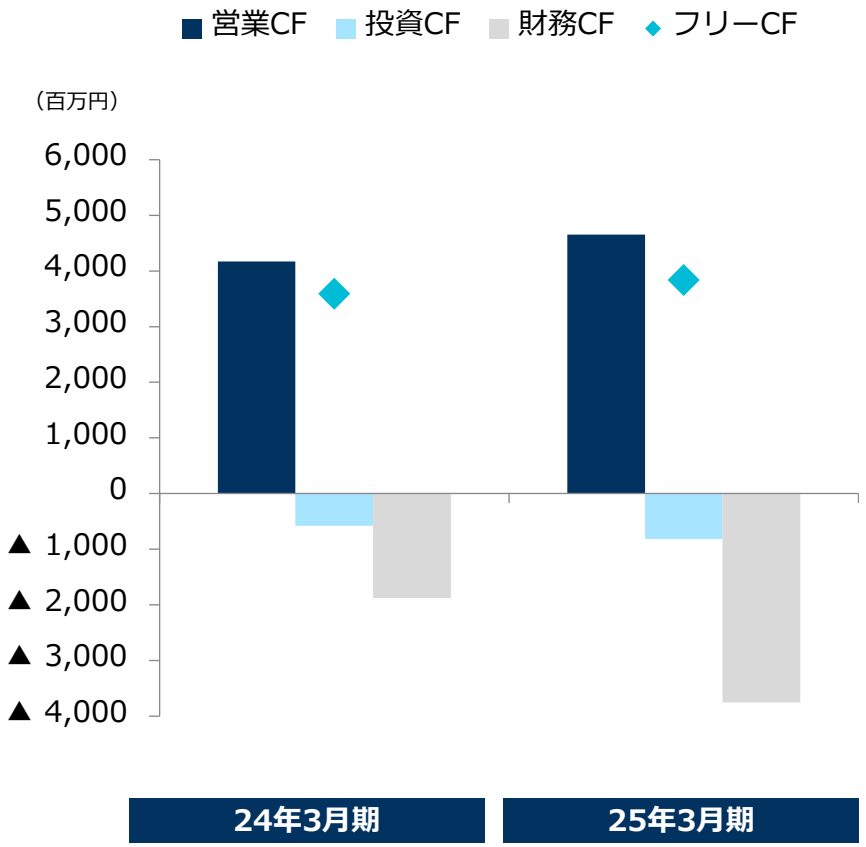


※ 自己資本比率＝自己資本/総資産×100
（自己資本＝純資産－新株予約権－被支配株主持分）

キャッシュ・フローの状況（連結）

安定的に営業CFおよびフリーCFを確保し、有利子負債の削減を進める

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	4,169	**4,652**	+482
投資活動による キャッシュ・フロー	△580	**△815**	△235
フリー・キャッシュ・フロー	3,588	**3,836**	+247
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,876	**△3,750**	△1,874
現金及び現金同等物の 増減額	1,766	**154**	△1,611
現金及び現金同等物の 期末残高	8,605	**8,760**	+154



2 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 連結業績予想

売上高は前年並みを予想、収益性の改善を進め増益を見込む

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	前年同期比 （26.3期予想/25.3期実績）
売上高	49,141	**49,000**	△0.3%
営業利益	3,627	**3,800**	+4.8%
営業利益率	7.4%	**7.8%**	+0.4P
EBITDA※	5,021	–	–
経常利益	3,615	**3,800**	+5.1%
親会社に帰属する 当期純利益	2,457	**2,600**	+5.8%
一株当たり当期純利益（円）	854.46	**904.11**	+5.8%
ROE	6.3%	–	–
ROIC	4.9%	–	–

※EBITDA＝経常利益+支払利息+減価償却費

STANDARD
TOKYO

2025年５月８日

各　位

会 社 名　株式会社　ニッピ
代表者名　代表取締役社長　伊藤裕子
（コード：7932　東証スタンダード）
問合せ先　取締役　　宮脇幹太
（Tel. 03-3888-6651）

新中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、現在、2023年９月22日公表の中期経営計画（2024.3－2026.3）（以下、「現行中計」といいます。）の見直しを実施しており、新中期経営計画（2026.3－2028.3）（以下、「新中計」といいます。）を2025年５月下旬に公表する予定です。

新中計の公表に先立ち、本日開催の取締役会においてその内容に関する基本方針を決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

基本方針

企業価値向上を実現するためのROE７％の確実な達成

１．新中計策定の経緯

（１）現行中計の前倒し達成

当社は2023年９月に、「2026年３月期経営目標」として売上高525億円、営業利益25億円、ROE 4.5%、ROIC 4.5%を掲げておりましたが、主要セグメントであるコラーゲン・ケーシング事業及びゼラチン関連事業において、価格改定を含めより収益性を高める諸施策を推し進めた結果、計画以上に収益性が改善し、2025年３月期の時点で現行中計の営業利益及びROE目標は前倒しで達成できる見込みです。しかしながら、当社のROEは５％程度にとどまり、PBRも１倍割れが継続するなど、株主の皆様のご期待に応えられていない状況が続いております。これには外部環境の影響のみならず、当社独自のディスカウント要因があると認識しており、その是正に向けた取り組みが必要であると考えております。

（２）収益性向上・株価向上に資する施策の検討

前述の状況を受けて、当社は現行中計の終了を待たずに、当社の中長期的な発展に資する取り組みを開始すべく、新中計を策定することといたしました。具体的には、下記の３点を重視してまいります。なお、下記のうち、今般②を先行して開示することとし、①及び③の詳細につきましては、2025年５月下旬に開示する予定です。

①成長事業への注力及び既存事業の収益力向上によるリターンの強化
②新たな資本政策の実施
③新中計を確実に実行するコーポレート・ガバナンス体制への進化

当社の株主や投資家、外部専門家のご意見を踏まえ、当社の株主資本コストを超えるROE水準は８%以上であると認識しております。つきましては、ROE８%以上の実現に向けた準備フェーズとして、まずは**2028年３月期にROE７%以上の実現を図り、2029年３月期以降に８%以上の早期実現を目指します。**

加えて、ROIC（投下資本利益率）からWACC（加重平均資本コスト）を差し引いて求めるEVA（経済的付加価値）スプレッドを企業価値創出の指標として参照し、**WACCを上回るROICの実現による、EVAスプレッドのポジティブ転換の実現を目指します。**

２．新中計の基本方針

（１）「成長事業への注力及び既存事業の収益力向上によるリターンの強化」

収益基盤の改革に向け、成長を見込んでいる健康・医療関連分野の深耕に注力するとともに、既存事業の収益力強化に取り組んでまいります。具体的には、ゼラチン関連事業及びバイオ関連事業の拡大を推し進めると同時に、各工場をはじめとした製造部門での生産性の更なる向上に向けた取り組みを継続します。また、事業の採算性及び成長性を精査して、経営資源の最適配分を実行します。

（２）「新たな資本政策の実施」

新中計期間中（2026.3－2028.3）は、以下の資本政策を実行します。

①株主還元の強化：配当方針は現行中計（2024.3-2026.3）にて目標としていた連結配当性向30%から、自己資本のコントロールを目的に連結配当性向70%とします。新たな配当政策につきましては、2025年３月期の配当から適用し、2028年３月期までの４期間継続いたします。（参考資料：「株主還元強化のイメージ」参照）

②戦略的なキャッシュアロケーション：経営資源の効率的な活用を目的として、創出した営業キャッシュフローはゼラチン関連事業及びバイオ関連事業を中心とした成長分野への投資及び株主還元へ振り分けます。

（３）「新中計を確実に実行するコーポレート・ガバナンス体制への進化」

前述の（１）及び（２）を支えるため、以下の見直しを検討し、コーポレート・ガバナンス体制をより堅固なものといたします。

＜予定事項＞

①定款の一部変更：取締役の任期を２年から１年に変更（2025年６月開催予定の定時株主総会にて議案上程予定）

②戦略投資委員会の設置：社外取締役や社内専門部署を中心とした、設備投資やM&Aにおける投資案の精査及び投資後のモニタリングを行う体制の整備

③スキルマトリクスの見直し：スキル項目の定義の明文化

＜検討事項＞

①取締役会構成の見直し：独立社外取締役の２名以上への引き上げ、多様性の拡充等

②役員報酬制度の見直し：KPI に業績へのコミットメントの追加、業績連動報酬・株式報酬の割合の増加等

③情報開示の強化による透明性向上：投資家との対話状況の開示等

３．新中計の数値目標

	2025 年３月期 （予想）	2028 年３月期 （計画）
売上高	49,000 百万円	52,000 百万円
営業利益	3,000 百万円	4,300 百万円
営業利益率	6.1%	8.3%
連結配当性向	70%	70%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,000 百万円	3,000 百万円
ROE	5.0%	7.0%
ROIC	4.1%	5.5%

４．今後の予定

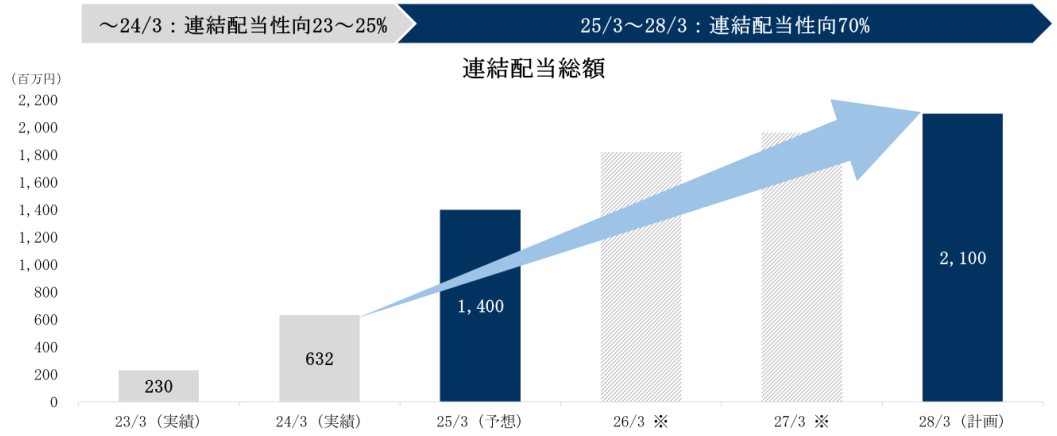
当社では現在、セグメント別の事業戦略の詳細についても見直しを行っており、2025 年５月下旬に、詳細版を公表することを予定しております。

以上

参考資料：株主還元強化のイメージ

株主還元の強化

2025年３月期から2028年３月期までの４期間、連結配当性向70%を継続します



	23/3（実績）	24/3（実績）	25/3（予想）	26/3 ※	27/3 ※	28/3（計画）
１株当たり年間配当金	80円	220円	487円	― ※	― ※	730円

※26/3期および27/3期は業績予想未公表につき、連結配当総額はイメージ

※2028 年３月期の配当金額は、現時点での事業計画に基づき計算したものであり、業績の変動によって数値が変動する可能性があります。

3 APPENDIX

社長メッセージ

自然の創造物を人々のくらしへ

1907年の創業来、当社は「良いもの」をつくることにこだわってまいりました。
品質第一を信念に、お客さまの要望にお応えする製品を提供すること、
これが、創業以来変わらない当社の経営方針です。
当社は、事業の要となるコラーゲンにいち早く着目し、
その研究を続けてまいりました。
コラーゲン業界の先駆企業としての自負をもちながら、
今なお新たな分野に挑戦し続けています。
今後さらに50年、100年の歴史をつくるためにも、
「つぎの良いものを創ること」に取り組んでまいります。

代表取締役社長　伊藤裕子

2004年9月	当社入社
2014年10月	大倉フーズ株式会社取締役
2015年7月	当社執行役員
2017年6月	株式会社ニッピコラーゲン化粧品取締役
2019年6月	同社常務取締役
2019年7月	当社経営企画室プロジェクトリーダー
2021年6月	当社取締役、経営企画室長、 化粧品・健康食品事業部・関係会社、知財担当
2021年6月	株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長
2023年4月	当社代表取締役社長（現）
2023年6月	一般財団法人日本皮革研究所理事長（現）

会社概要

商号	株式会社ニッピ（Nippi, Incorporated）
本社所在地	〒120-8601　東京都足立区千住緑町1-1-1
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp/
設立	1907年（明治40年）4月1日
資本金	4,404百万円
証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7932）
従業員数	487名（2025年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長　伊藤　裕子
事業所	生産拠点：　テクノセンター（東京都） 富士工場（静岡県） 富士宮工場（静岡県） 芝川工場（静岡県） 研究所：　バイオマトリックス研究所（茨城県）

事業内容	コラーゲン・ケーシング事業 ゼラチン関連事業 化粧品関連事業 皮革関連事業 賃貸・不動産事業 食品その他事業
主な子会社	株式会社ニッピコラーゲン化粧品 株式会社ニッピ・フジタ 大鳳商事株式会社 大倉フーズ株式会社 NIPPI COLLAGEN NA INC. 日皮（上海）貿易有限公司 日皮胶原蛋白（唐山）有限公司 ニッピ都市開発株式会社 株式会社ボーグ
関連会社	株式会社マトリクソーム
関係団体	一般財団法人日本皮革研究所

本社ビル

テクノセンター

富士工場

富士宮工場

芝川工場

バイオマトリックス研究所

当社のDNAとありたい姿

当社のDNA

「生み、育み、支える」

ものづくりへのこだわり

- 高品質
- ユニーク
- 先取り

ありたい姿

タンパク質研究のエキスパートとして人々の生活の質の向上に貢献する

食・健康・医療関連分野におけるニッチトップを目指し
ユニークな製品・サービスを提供

事業創出の歴史

副産物のアップサイクルにより新たな事業を展開

- 1907 日本皮革株式会社（現当社）創業

- 1932 ゼラチン事業へ進出

- 1952 コラーゲン研究の推進
- 1960 コラーゲン可溶化の成功

- 1962 コラーゲンケーシング事業へ進出

- 1974 株式会社ニッピへ商号変更

- 1975 コラーゲンペプチドの開発

- 1976 耐熱・耐焼性難質塩化ビニルの開発

- 1984 コラーゲン化粧品事業へ進出

- 1997 医療用高純度ゼラチンの開発

- 2003 試料破砕器具の開発

- 2011 再生医療分野へ進出

- 2021 三次元培養基材の開発

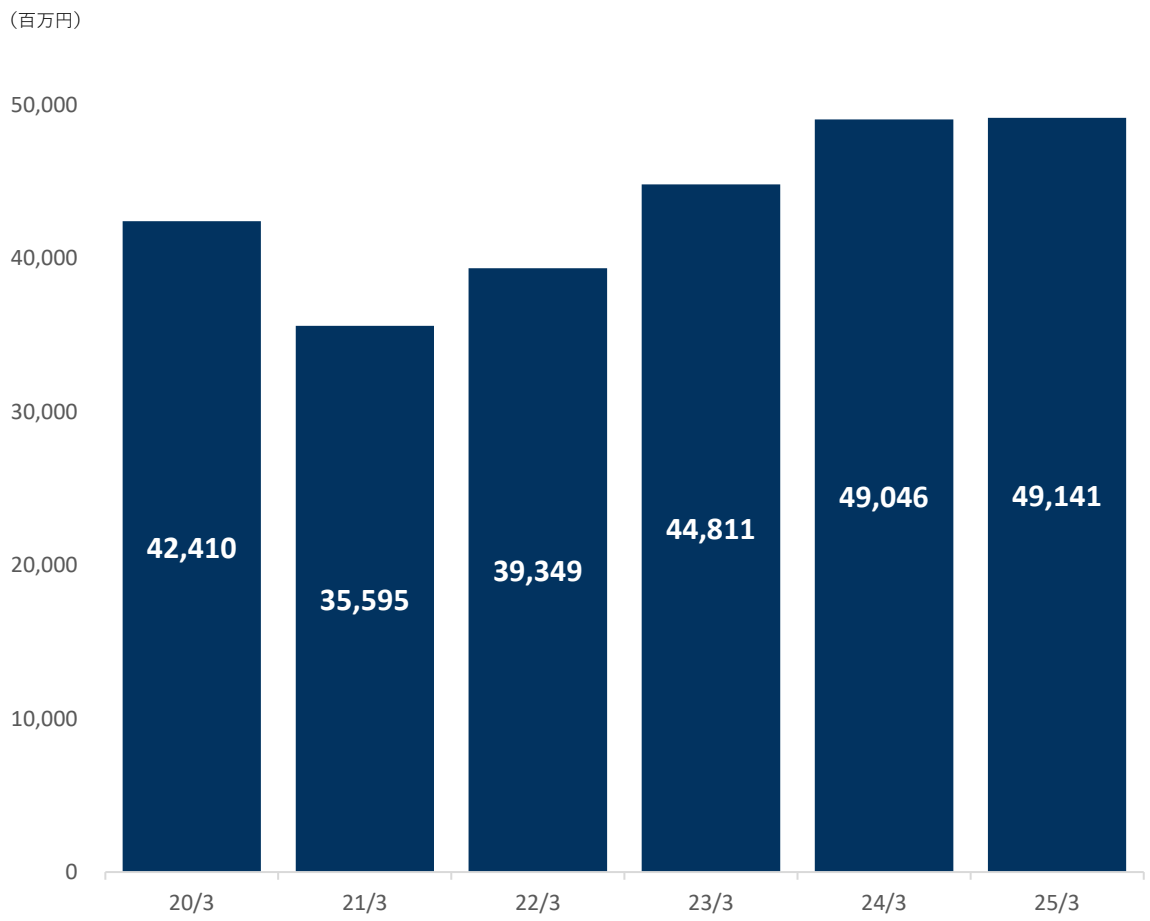
- 皮革事業
- ゼラチン事業
- コラーゲン事業
- 化粧品・健康食品事業
- 研究所設立 → バイオマトリックス研究所に改称
- バイオ関連事業
- 賃貸・不動産事業

コラーゲン研究から生まれたコラーゲン・ゼラチン製品群

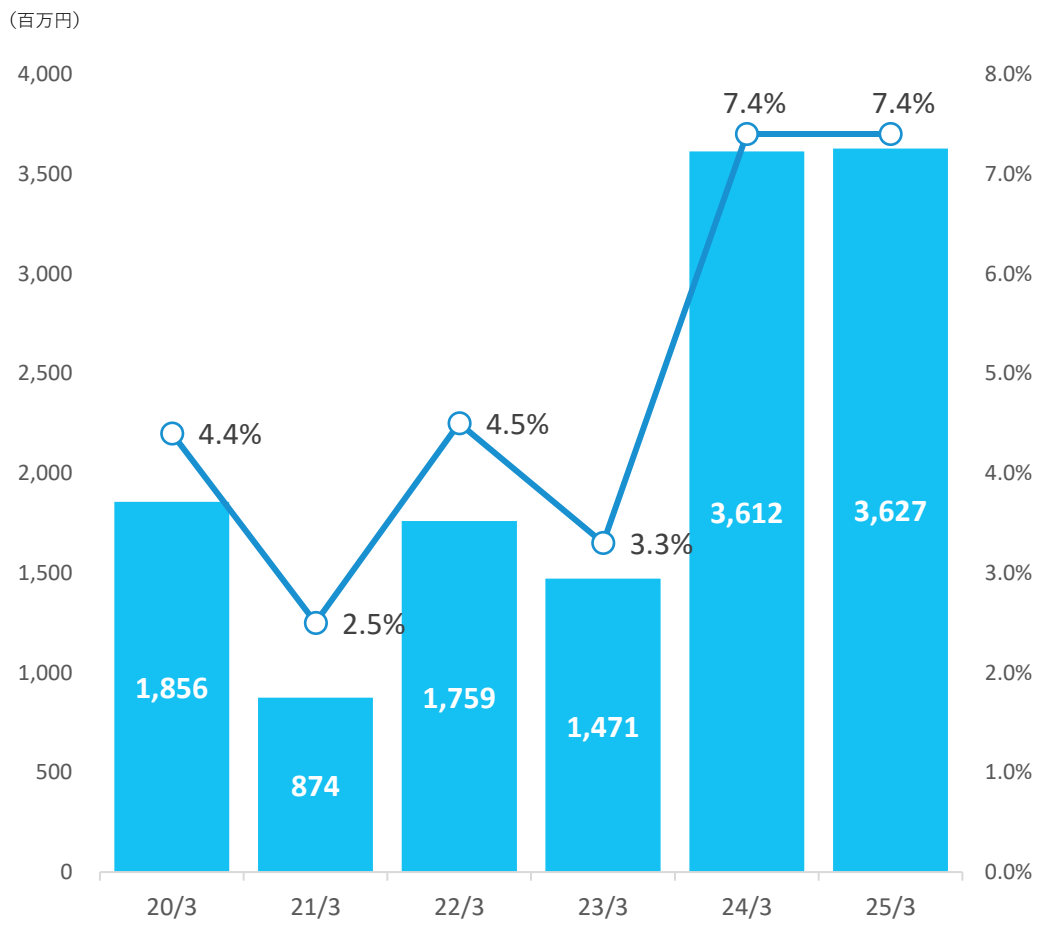
品質にこだわり、前例にこだわらず、
新たな製品開発に挑戦し続ける

業績推移

売上高



営業利益 / 営業利益率



事業紹介

ゼラチン事業

生産拠点　富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンを分解、精製して製造したゼラチン及びコラーゲンペプチドを取り扱い。
ゼラチンは古くから私たちの暮らしに活用され、ゼリーやグミキャンディ、カプセル、コンビニエンスストアのレンジアップ商品等に使用されている。
コラーゲンペプチドは、低分子で体内に吸収されやすく、様々な機能性が明らかになっている素材。健康や美容への効果が期待でき、水に溶解させることが容易なため、健康食品の飲料や粉末商品、錠剤など様々な用途で使用されている。
最新設備を導入したコラーゲンペプチド製造専用施設CQT棟では、長年培った製造技術と最新の研究を活かした「Collagenomics」等を製造し、市場やお客様のニーズに対応した製品の提供に取り組んでいる。

コラーゲンペプチド

カプセル

グミキャンディ

ドリンク商品

レンジアップ商品

※ニッピペプタイド、Collagenomicsは、ニッピの登録商標です

コラーゲン・ケーシング事業

生産拠点　富士宮工場、芝川工場（静岡・富士宮市）

タンパク質のひとつであるコラーゲンを使用したソーセージの皮「ニッピ コラーゲン ケーシング」や可食性の紐「ニッピストリング」を取り扱い。
ケーシングは100％ウシ由来のコラーゲンを使用。サイズはもちろん、食感に関わる皮の厚みなど、お客様のご要望に幅広く対応し提供している。
植物性色素を用いたカラーケーシングや天然素材を使用した印刷ケーシングも取り扱う。
ソーセージの皮にイラストをプリントする方法は当社独自の技術。静岡県富士宮市の生産拠点で、富士山の天然水を使用して製造し、世界30カ国以上に輸出。
ストリングは、ケーシングと同じ原料を使用し、もち巾着や昆布巻き、ロールキャベツなどの紐として利用されている。

印刷ケーシング

ニッピ コラーゲン ケーシング

ニッピ ストリング

事業紹介

バイオケミカル事業部

生産拠点　ニッピテクノセンター（東京・足立区）

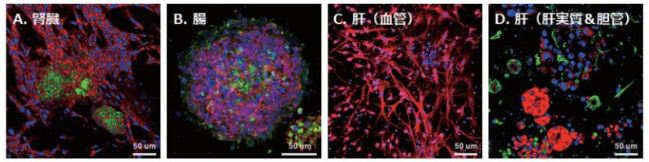
コラーゲン及びゼラチンの基礎研究で培った技術を応用したバイオテクノロジー分野から、高分子研究の成果を用いたケミカル分野まで、幅広い機能素材や高付加価値製品を取り扱う。
バイオ部門では、医療用途向けのコラーゲンやゼラチンをはじめ、ライフサイエンス研究試薬、細胞培養用基材、動物用体外診断用衣料品などの製品を製造販売。コラーゲンを活かしたペット用サプリメントも取り扱い。
ケミカル部門では、当社独自の技術を応用して開発した化学架橋塩化ビニルを主軸に、電線被覆用コンパウンド、マスキングフィルム、床材溶接棒等のケミカル製品を取り扱う。

バイオマトリックス研究所

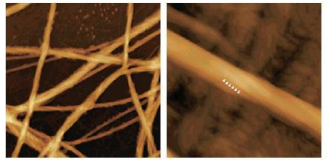
生産拠点　バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）

ヒトの身体を構成する細胞のうち、赤血球などを除いた十数兆個の細胞は、細胞同士、あるいは細胞が合成分泌して蓄積する細胞外マトリックスという足場に接着しています。その主成分は、コラーゲンというタンパク質。
コラーゲンは、ヒトの全タンパク質の約30％を占めているといわれ、骨や皮膚、腱などの主成分であるだけでなく、あらゆる臓器に存在して、多様な細胞や組織が清浄機能を発揮するための環境を提供するとともに、多くの疾患や成長・老化といった生命現象に密接に関与している。
バイオマトリックス研究所では、生化学や細胞生物学、細胞化学を中心とした、ライフサイエンス研究用試薬、医薬品、健康食品、化粧品などの分野において、人々の暮らしと健康に貢献するような研究開発に取り組んでいる。

バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）



三次元培養基材によるオルガノイド形成


コラーゲン再構成線維の原子間力顕微鏡像

事業紹介

化粧品関連事業

当社は、コラーゲンメーカーとしての強みを活かし、高品質のコラーゲン製品を提供。
主力商品として「コレセンス スキンケアジェル」と「ニッピコラーゲン100」があり、ロングセラーに。子会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品において、通信販売によりお客様にお届け。

コレセンス
エンリッチ ナイトマスク

コレセンス
スキンケアジェル

ニッピコラーゲン100

皮革関連事業

創業事業である皮革鞣製造業からは退いたものの、当社が100年にわたり蓄積した皮革製造販売のノウハウは子会社である株式会社ニッピ・フジタが継承。同社は皮革のプロフェッショナル企業として、世界中のタンナリーとユーザーをつないでいる。

賃貸・不動産事業

当社開発推進室では、土地再開発計画立案から実現まで、計画管理運営等不動産事業全般を推進。
東京本社所在地、京成線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデTOKYO」地区開発をはじめ、大阪府大阪市においても賃貸事業及び土地開発事業に取り組むなど、当該地区の資産価値の増大に貢献。

みらい千住
ポンテグランデTOKYO
PONTE GRANDE - TOKYO

●昔と未来、●空と緑・花、●川とまち、●風景と建物、
●人と人　の5つの要素を結びます。

本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としています。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されており、将来の結果や業績を保証するものではなく、既知および未知のリスクや不確実性が含まれています。その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予測に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる場合があります。